

議会ポスト 意見等への回答

作成日：平成27年03月24日

作成者：上越市議会議長

寄せられた意見等

いよいよ新幹線が開業致します。トキ鉄があるものの、フィダー(二次交通)は非常に乏しい状況ではないでしょうか。高速バスも新潟交通や越後交通との折り合いがつかず、頸城自動車も経費面から本町経由南本町1丁目の延伸や新井 BP 線の乗り入れなど5系統に佐渡汽船シャトルの新規路線1系統。これなら、今まで通り越後湯沢経由で直江津で降車された方が利便性が良い状況です。

上越市は平成17年から26年末の計画で上越市総合交通計画を策定され、板倉区や浦川原区、中郷区などをデマンド型へ移行し、直江津佐内線の一部見直しなど実施されてきましたが、政権の交代や県からの補助金削減などもあり、26年度までに完了できず継続実施となりました。最近の活性化会議も報告事項が主で現在着手している三和区に於いては頓挫していると聞いています。

幸い現政権では2020年までに地方の公共交通対策を強化にかかげ、デマンド型を中心に整備する運びです。既にデマンド型を取り入れている三条市や魚沼市などは検証を繰り返し、利用料金の値上げや運用方法の変更などを実施しました。

このまま公共交通活性化協議会を静観していても、進展が見込めません。議会としても新幹線等特別委員会でご討議いただき、一番の利用者である高校生の利便性向上改善と人口減少、高齢化に対応した地域内公共交通の構築が必要だと思い意見致します。

回 答

いただきましたご意見に対し、以下のとおり、回答致します。

市では、上越市地域公共交通活性化協議会が主体となってまとめた、新たな上越市総合公共交通計画を、本年3月に決定する予定としています。

計画では、当市における公共交通の現状と課題を分析したうえで、地域公共交通における将来像や基本的な方針、目標を定め、達成に向けた施策を掲げています。詳細は、上越市総合公共交通計画をご参照いただきたいと思います。これまでの鉄道や路線バス中心の内容から、乗合タクシーやスクールバス、特定の区域内を走る地域バス、福祉有償運送など多様な公共交通を加えた内容とし、「市民の日常生活を支えること」と「市内外の交流促進を図ること」を基本方針としています。

今、当市では、急速に進行する人口減少や高齢化などによる社会情勢の変化、北陸新幹線開業による交通体系の変化などにより、地域における公共交通のあり方を考える重要性

が増しており、議会としましては、新幹線・並行在来線等対策特別委員会を設置し、並行在来線のあり方、さらに二次交通を含めた総合的な交通体系について、政策提言に向け調査研究を行っているところです。

今後、上越市総合公共交通計画に基づく市の施策が展開されますが、議会においては、それらの施策を審議する中で、利用実態や市民ニーズを把握しながら、利便性の高い公共交通体系の実現に向けて十分な議論と議員間討議を行い、議会の役割、責務を果たしてまいります。